

さんりんしゃ 三輪車



ニッキー

八千代市立新木戸小学校

《校長室だより》

発行：校長 寺田 好江

令和元年度 第 28号

令和元年 12月6日

【学校教育目標】 自らの可能性を拓く子供の育成

3年生校外学習

12月2日(月)千葉市科学館・千葉ポートタワー

予定していた10月25日に大雨が予想されたので、延期した3年生の校外学習に行ってきました。残念ながらこの日も雨…でも千葉市科学館と千葉ポートタワーの中は快適！たくさんの体験や見学ができたようです。

11月29日(金)には石井食品のミートボール工場にも見学に行きました。一度にたくさんの肉や玉ねぎが混ぜられて、ミートボールになっていく様子を見たり、たくさん質問したりして、工場の人々の様子や苦勞がよくわかったのではないかと思います。

3年生は、生活科が社会科になり、身近な八千代市のことから学習していきます。「百聞は一見に如かず」実際に自分の目で見て、話を聞いて、体験して理解していくことが大切です。この後学習する、千葉県の玄関の一つの千葉港の様子や、工場がたくさん並んでいる様子を見ることができて良かったです。また、グループで科学的な体験もたくさんできてとても楽しかったようです。



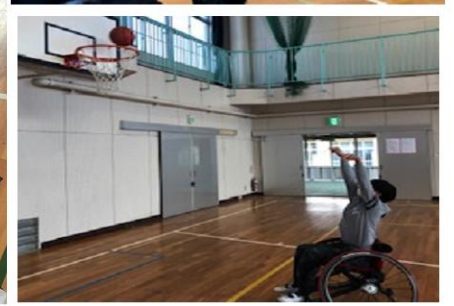
本物にふれる体験を通して[4]

義足体験・車いす体験

6年生は総合的な学習の時間にパラリンピックについて学んでいます。10月30日にはボッチャの体験をしました。実際に肢体不自由でありながらボッチャの競技をしている荒井選手にも来校していただきました。

ランプと呼ばれる滑り台でボールを転がし、狙い通りにボールを転がす様子に驚きました。12月5日には、義足でアンプティサッカーや陸上競技に取り組んでいる金井選手に来校していただき、義足体験・車いす体験をしました。体験用の義足をつけて足踏みするのも一苦勞でした。

電動車いすや競技用車いすにも乗ってみました。体験して感じる事や金井選手の姿をみて、話を聞いて感じる事は、本やインターネットで調べきれない事ばかりです。自分で体験したからこそ、あと263日にせまったパラリンピックを楽しみにする児童が増えるのではないかと思います。
(裏面に児童の感想を載せました)



【義足体験・車いす体験をして】

- * やらないとわからない。義足で歩くことも大変だった。考えてみると段差を上るのはもっと大変だと思った。
- * 義足で歩くだけでも大変だったので、パラ陸上の選手は、走るために相当練習を積み重ねたんだと思った。また、車いすの介助者も簡単そうで車いすに乗っている人に配慮しなければならないので大変なんだと思った。もし、車いすを押すことがあったら、声をかけながら気を付けたいと思った。
- * 今日たくさんの体験をしたが、本当に足のない人の気持ちになれたかという、そうではなかった。「足のない人のつらさがよく分かった。」というそれっぽいことは書かないで、本当の感想はというと、友達が支えてくれて楽しかったと思ってしまう自分がいた。本当に足がなくなってしまった時に、やっとその苦勞がわかるんだと知った。
- * 膝がない人用の義足はとても難しくて、「膝カックン」をされている感じだった。車いす体験では、電動車いすが難しかった。タイヤを動かさないのどのくらい進むかうまくわからなかった。
- * 義足や車いすを使う難しさがわかった。義足は少しでも安心すると転んでしまう。車いすは曲がるときに大きく曲がらないとぶつかってしまう。車いすで事故が起こることも聞いて、車いすの人が通っていたら、はじによけるようにしたいと思った。
- * 膝がない人用の義足で転びそうになった。そんな義足を使いこなしてスポーツをしている人がすごいと思い、応援したくなりました。
- * パラリンピックの選手が、普通に義足をつけて走っているのを見ていたので簡単だと思っていたら、難しくてすごく努力したんだと思った。
- * 電動車いすは指でちょっと押すだけで動くので、障害の重い人でも使えるんだと思った。競技用車いすは軽くて小回りが利いてスピードも速かった。車いすでもこんなに違うんだと思った。
- * 車いす体験や義足体験を教えてくれた金井さんの足にも義足がついています。「すごいなあ。慣れるのだから大変なのに、走っている！車も運転している！」と思いました。
- * 色々な使い道によって車いすや義足があった。競技をしている人専用で作られているものもあると知った。日本の技術はすごいなあと思った。
- * テレビやCMで障害のある人のことがたくさん紹介されるようになった。見た目簡単そうに見えてもやってみると難しいものばかりだった。障害を持った人は、障害と向かい合って、それでスポーツもしようと思って頑張っていることが本当にすごいと思った。
- * 競技用車いすからバスケットゴールにシュートするのはすごく難しかった。車いすバスケットをしている選手たちの試合が観てみたくなった。
- * 競技用車いすでバスケットボールのシュートをしました。ふつうのゴールの高さと同じ事はわかっていただけけれど、やってみるとかなりゴールが高くて難しかった。
- * 今回体験して、競技用車いすは、ブレーキもなくてとても難しかったので、パラリンピックをよく見てどうやって戦っているのか見てみたくなりました。
- * やっぱりパラアスリートの人はずいぶんすごいなあ！改めて思った。競技用義足をはいて速く走ったり、走り幅跳びでは8mも跳べるなんてすごい！と思いました。また、車いすバスケットの選手はテレビとかで観ると、あっさりシュートを決めて世界の選手と戦ってる、ここでもやっぱりすごい！と思った。
- * 金井さんの歩き方は義足を使いこなしているんだと思った。走ったり、歩いたり、自由に動いていて足が見えなかったら障害を持っている人には全然見えなかった。
- * 障害を持った人の練習やリハビリがとっても大切だということと、支えてくれる人も大切だと思った。義足体験では隣に友達がいてくれて安心した。これからは障害を持った人を差別せず、パラリンピックの時には、選手がどれだけすごいのか考えながら応援したいと思った。
- * 障害の有無の関係なしで、みんなが生活しやすい世界になってほしいし、作っていかないと！と思った。